



# 生活クラブ風車



# 夢風News

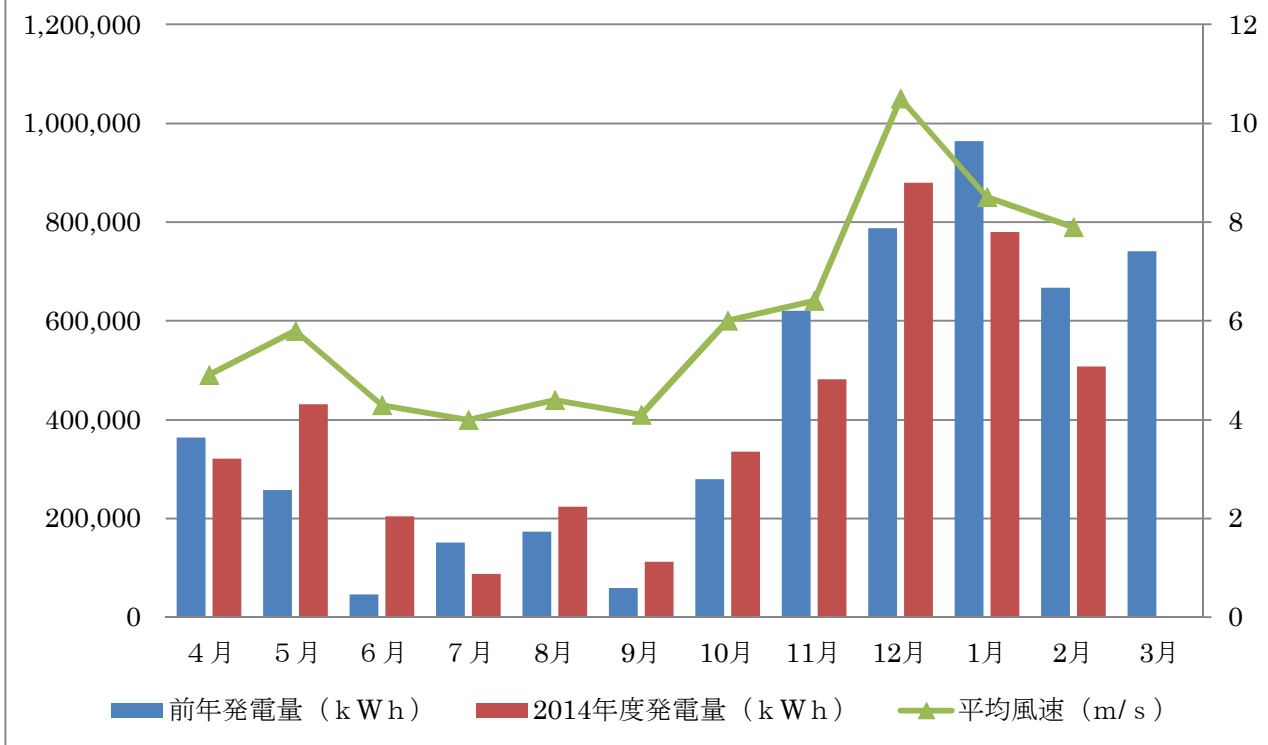
Vol.33

●発行 2015.3.15 一般社団法人グリーンファンド秋田

●発行責任者 半澤彰浩（代表理事） ●編集責任者 鈴木伸予

## ■ 2014年度 発電実績 ■

	発電量 (kWh) 【前年比】	平均風速 (m/s)	設備利用 率 (%)		発電量 (kWh) 【前年比】	平均風 速 (m/s)	設備利用 率 (%)
4月	320,524 【88.0%】	4.9	22.4	10月	335,268 【120.2%】	6.0	22.6
5月	431,507 【167.3%】	5.8	29.1	11月	481,824 【77.6%】	6.4	33.6
6月	201,904 【440.5%】	4.3	14.3	12月	879,287 【111.6%】	10.5	59.4
7月	87,899 【58.0%】	4.0	5.9	1月	780,558 【80.9%】	8.5	52.7
8月	223,914 【129.3%】	4.4	15.1	2月	507,740 【76.1%】	7.9	38.0
9月	112,694 【191.3%】	4.1	7.9				



○ 2月は、暴風雪による強風と風の弱い日の差が大きい一ヶ月となりました。昨年と比較すると、この時期の風況としては低く、発電量も前年比 76%となりました。

○ 2/13に暴風雪による送電系統事故の影響で運転を停止しましたが、翌日には復旧しました。

■生活クラブ東京で「夢風」の里からセットに取り組みました

生活クラブ東京のカタログ「LIVELY」の6週目（2/9～2/13）の「夢風の里からセット」の紹介ページ。ページの上部には「2014年度 第3期 生活クラブの学校企画のご案内」や「被災地スタディツアー/音訳入門講座/生き物環境調査・東京フォーラム/食農共賞講座 他」の情報が掲載されている。中央には「生活クラブ風車「夢風」の里からセット」のメイン写真と、商品名、価格、数量の表が掲載されている。表には「象潟うどん 220g×2 2枚 320円」、「はたはたおいる漬 90g 180円」、「えびっこ「炙り」 70g 40円」、「いちじくの甘露煮 200g 180円」、「いちじく羊羹 60g×4 120円」が記載されている。また、「おいしくて、栄養たっぷり!」という見出しの下には「バスチャライズド牛乳 200ml×2本 190円(税込205円)」や「5週配達 [2/2～2/6] おやつにちょうどいい食べやすいサイズ 1030 中華ぶたまん(小) 400円(税込432円)」などの商品が紹介されている。下部には「大人のバレンタインに、スパークリングワインを!」という見出しで、ルミエール・ベティヤンなどのワインが紹介されている。

生活クラブ風車「夢風」を通じての、生活クラブと秋田県にかほ市との連携も4年目を迎えます。

生活クラブ東京では、今回初めて“生活クラブ風車「夢風」のまちにかほ市とつながろう!!”として「夢風」の里からセットを6週（2/9～2/13）に取り組みました。

セット内容は、にかほ市観光開発（株）による象潟うどん（伊藤製麺所）、いちじく羊羹（幸月堂菓子舗）、いちじく甘露煮（佐藤勘六商店）、炙りえびっこ（でんべいかれい生産グループ）、はたはたおいる漬（三浦米太郎商店）の5品目9点です。大振りのえびを使った炙りえびっこといぶりハタハタを使ったはたはたおいる漬は酒の肴にぴったり。にかほ市はいちじくの北限地として有名でいちじく製品は特産品。伝統製法で作られたうどんののど越しの良さ。それぞれの特徴が生かされたセットです。

（左：東京の組合員の方に配布したカタログ）

にかほ市との交流は毎年組合員が訪問して行っていますが、直接「夢風」を見てにかほと連携を実感できる組合員はやはり限定されます。行くことが出来なくてもにかほの風を感じる。このセットがその一つとなればうれしいです。

原発が1基もない秋田県の中にあって特に風力発電を積極的に誘致し今では数十基の風車があるにかほ市は、「夢風」を通じて生活クラブのエネルギーの生産地の一つとなりました。鳥海山をはさんで隣り合っている遊佐・庄内地方は生活クラブにとって重要な食料基地であり、天候はどうだろう、米や農産物の具合は？と気にする組合員も多いと聞きます。にかほ市も組合員にとってより身近な場所となり、「風が吹いているかな、夢風は回っているかな」と思いを馳せる場所となっていく関係性を築いていきたいと思えます。

生活クラブ東京 副理事長 植田 泉



## ■(株)生活クラブエナジー設立記念フォーラム開催報告



3月16日、ドイツよりベルリン自由大学のミランダ・シュラーズ教授をお招きして、(株)生活クラブエナジー設立記念「エネルギーを市民で自治しよう！～電気の共同購入をスタートしよう～」フォーラムが、生活クラブ組合員、生産者、関係各位、250名の参加で開催されました。

初めに、生活クラブエナジーの設立の経過と今後の計画について半澤彰浩代表取締役より報告を受けました。

続いて、「ドイツのエネルギー転換：市民社会の重要な役割」というテーマでミランダ・シュラーズさんの記念講演を行いました。ドイツでは、日本の福島第一原発の事故を受けて、倫理委員会で脱原発を決め、2022年までに段階的に原発を停止することを決定しました。この倫理委員会の委員でもあったシュラーズさんは、原発は将来の世代に対してフェアではない事、また、原発はリスクが高すぎる、電気を作るなら他の方法があるという理由から、原発をやめる事を、安全なエネルギー供給のための報告書としてメルケル首相に提出したと言います。ドイツでは脱原発の運動と、自然エネルギーを拡大する動きが両輪で進みました。ドイツの自然エネルギーの所有権の割合をみると、35%が市民で最も多く、農家が11%、大手電力会社は5%しか占めていません。これを見ても、脱原発、自然エネルギーをすすめてきたのはまさに、市民の草の根の力だと言います。



記念講演を受けて、全国ご当地エネルギー協会代表理事の佐藤彌右衛門さん、生活クラブ埼玉理事長の清水泉さん、生活クラブ連合会会長の加藤好一さん、生活クラブエナジー代表取締役の半澤彰浩さん、ミランダ・シュラーズさんをパネリストに、名古屋大学准教授の丸山康司さんをコーディネーターとして、パネルディスカッションを行いました。佐藤さんからは、原発事故後、地元の資源を使ってエネルギーを生み出そうと決意され、会津電力を立ち上げられた思いと、自然エネルギーで地域経済の自立をめざすこと。清水さんからは、生活クラブ風車の建設や省エネの取組と、市民が電気を選ぶことが大事ということ。加藤さんからは、3.11以降の協同組合の動きと、人が人らしく生きられる社会に向けて協同組合の果たす役割。半澤さんからは、日本のエネルギー政策の課題と電力小売り自由化で消費者が電気を選択するための表示の課題。についてそれぞれお話をいただきました。最後に丸山先生より「電気を選べる時代が来る、という事は逆に消費者が産地から選ばれるという事でもある。そのキは生活クラブがすすめてきた対等互惠という考え方であり、また、もう一つのキは女性です。」と生活クラブへの期待を含めたまとめをいただきました。

■「ハタハタ寿司」がフード・アクション・ニッポン・アワード 2014 を受賞しました ■



フード・アクション・ニッポン・アワードは、国産農産物等の消費拡大に寄与する事業者・団体等の優れた取組を表彰することにより、国産農産物等の消費拡大に向けた活動を推進することによって、私たちや未来の子供たちが安心しておいしく食べていける社会の実現を目指すものです。2014年度、地域の食文化を保護し、継承していく活動や、食文化を活用して、地域の活性化を促している取組などを表彰する食文化部門で、(有)三浦米太郎商店さんが「秋田こまちと米麴を使った秋田の伝統食「ハタハタ寿司」として受賞されました。この賞が創設された2009年に、「国産にこだわった消費材を供給し、108億キロカロリー自給率を高めた」として生活クラブ連合会が受賞しています。また、同年、生活クラブと共に取り組んだ「飼料用米プロジェクト」で平田牧場も受賞しています。

< 異動挨拶 > . . . . .

小林 孝行 グリーンファンド秋田事業部長 (新)

この4月より、生活クラブ埼玉よりグリーンファンド秋田へ異動となりました小林孝行と申します。生活クラブ埼玉に入職して30年余りの時が過ぎ、今回の異動を新たな環境でのチャレンジと考え、これまで埼玉で培ってきました経験を、このグリーンファンド秋田の業務の中で活かしていけたらと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

- 出身地 : 東京都荒川区 (下町) \*現在は埼玉県越谷市在住
- 家族構成 : 妻と娘2人。他にペットとしてアメリカミシシッピ一亀1匹&めだか (楊貴妃) 6匹が同居。
- 趣味 : 珍しい多肉植物の育成と骨董っぽいものや記念硬貨などの収集。

荒川 展道 グリーンファンド秋田事業開発部長 (旧)

このたび、4月1日付で(株)生活クラブエナジーへ異動することになりました。2年前に着任して以来、やりがいのある仕事に恵まれ今思うと本当にあつという間でした。このような職場と巡り合えたことは、私にとって最高の幸せであったと感慨を新たにしております。これから通勤時間がドア to ドアで2時間になりますが、ここでの経験を活かし、自分を磨いて力を発揮して参りたいと思います。最後に皆様のご健勝とご活躍を、お祈り申し上げ挨拶とさせていただきます。本当にありがとうございました。

濱田 有士 グリーンファンド秋田事業部長 (旧)

生活クラブ風車が秋田県にかほ市で稼働して3年が経ちました。縁あって、私は風車の建設検討段階から関わらせていただき、2013年春よりGF秋田に就きました。GF秋田では、個人向けグリーン電力証書「えねばそ」の取り組みや省エネ活動推進グッズの開発、学習会の開催、また(株)生活クラブエナジーの会社設立、そして電力供給事業の準備等をすすめてきました。当時風車建設と合わせて思い描いた「電気の共同購入」が僅か5年で現実のものとなってきたことに改めて、生活クラブのパワーを感じています。今春からは(株)生活クラブエナジーの一員として業務にあたります。GF秋田での貴重な出逢いに感謝しつつ、ここでの経験を新しい事業にしっかり繋げていきたいと思っています。